

# あだたら

第425号  
発行所 町会  
山田 山部  
郡 山田 山部  
あだたら 山部  
編集

二月三日(土)

安達太良山と当会が

日本山岳遺産に認定

報告・編集部



3月5日、〇〇市長に報告、〇〇会長、〇〇事務局

東京、神田神保町、山溪の会社も入っている三井ビル二十三階で「二〇二三年度山岳遺産サミット」が開催され、今年度認定された「安達太良山」と当会に認定証が交付された。会長が

業務多忙で参加出来ず、〇〇〇〇副会長と〇〇〇〇事務局が参加した。活動報告は、〇〇〇〇副会長が行った。この事について、ご協力頂いた、二本松市に対し三月五日(火)市役所市長室

●編集部連絡先  
二本松市 市役所内 1-515  
0243(22) 4245  
FAX 可 渡辺 正

にて、〇〇市長に対して、受賞についての報告とお礼を行った。市長からは次のような言葉を頂いた。「日本山岳遺産に選定されたと言う事は、会員の皆さんの汗と涙の結晶です。今後とも市民に対して登山、自然観察会など、安達太良山のすばらしさを紹介頂ける事を期待いたします。二本松市としても協力致します。なお、今年度山岳自然遊歩道の整備を実施いたします」。



山岳遺産基金・〇〇〇〇会長から 〇〇副会長が、認定証を受領

◆ 《山岳サミット参加報告》  
二本松駅六時二十九分の上りに乗車、本宮駅でホームにいた〇〇副会長を見つけて合図、合流できた。郡山駅では新幹線ホームに直行。指定席だから楽なもの。向かって左側が指定席、右側がらがら。振り返って見たが安達太良山は雲の中。宇都宮過ぎて右側に日光連山。都内に入ったら、右側に富士山が見えた。  
新幹線上野駅のホームから山手線乗り換えのために、とても長いエスカレーターで地上に出なければならぬ。久しぶりにこのエスカレーターに乗った。地下鉄の中には、駅周

辺の地図が出口ごとに掲示されているので、ビルの名前さえ分かっていると間違わなければ目的地はすぐ見つかる。今回も「神田神保町三井ビルディング」にすぐ辿り着けた。最近の事務所だけが入っているビル、大きな出入り口は無く、通用品程度の入口だけ。それを何とか見つけて入ったら、中に女性があり「山岳遺産サミット」というA4程度の案内板を持っていて、向こうから声をかけてくれた。「山岳遺産関係ですか、だったらこちらです」。事務所ビルなのでビル一階にも大きなエレベーターホールなどなく、案内してもらってエレベーターに乗れた。二十三階では、まずサミットの会場に案内され、すぐ認定証などを手渡された。式典などで重々しく渡されたのではなかった。隣の部屋で、山岳遺産基金会長と一緒に記念撮影。これが唯一の「式典」みたいなもの。その奥に待合室が設けられていて、そこで待機することになる。

十二時からリハーサル、当会が一番最初、パワーポイントでスライド映写、少し話し進めて、リハーサルは終わり。各認定団体もそれに続いた。  
あとは、サミット開始までの時間、待合室で待機だ。開始時間は十三時半、昼食は摂らなかつた。開始時刻



〇〇副会長の発表

には会場は七十名定員が満席状態。第一部は今年認定された、四個所の認定団体の活動報告。当会が最初、〇〇副会長、十三時四十五分五分程度と求められていた。後は、朝日岳、道宗道、浅間山の各団体。  
第二部は「山の環境とクマの活動の変化」という講演、講師は東京農工大の〇〇〇〇教授。十六時には閉会した。ここで改めて関係者と写真撮影。十七時過ぎから一階の「サンバル」という店で、懇親会。三十分ほど今回の認定受賞者や



ほぼ満席のサミット会場

山岳遺産基金の関係者と交歓した。早めに退席し、二十時半過ぎには、二本松駅に戻る事が出来た。

三月二十四日(日)

三月山行・冬山パトロール

報告(・・・)



2024/03/24

3月山行、冬山パトロール、□□□□さん提供

二月二十九日(日)

個人山行・早春の目山

報告・□□□□

安達太良勢至平分岐まで二十四日に行き、今年の雪は少なくとも分岐の道標の頭が例年なら出たり入ったりなものであるが、今年は一層位出ている。大石も三分の二くらいは出ていた。日山も雪が少ないのではないかと、思い、早咲の「マンサク」が咲いているのではないかと

と、二月二十九日、晴天に誘われ、スノーパードで昼食を買い田沢登山口へ。駐車場には二、三層位の雪。車一台が駐車していた。十時入山、遊歩道うすらの雪道である。田沢コースの東屋で休憩、登山道は全面雪道となる。前の登山者の足跡

だ。途中早咲きの「マンサク」が五分咲き位かな。岩の上からカメラに収める。山頂まで九百級の道標あたりからは、雪も十層位になる。登山道に雪の重みで倒れている木をストックで払いながら登る。山頂では十五層位の雪、足跡は一人だけの様だ。日山神社を借り休憩。前の木に付いた雪が、太陽に照らされイルミネーションみたいだ。十二時四十分出発、鳥居まで来ると男女二人が田沢口から登って来た。話を聞くと三春から来たらしい。二人は見晴台に上がって行った。今回久し振りに「体内くぐり」岩を通る。登山道までは急なので、気は抜けない。無事登山口に戻ると、ここの



2024/02/19

日山山頂

雪は十層位になる、日当たりの良い所は土が出ている所もあったが全面雪道であった。茂原コースの展望休憩所でコーヒータイム。山頂で逢った二人組が下がり、茂原登山口に無事下山する事ができた。駐車場には三時三十分に着く。帰り山木屋の「タンポリンク」を見たく、山木屋方面に車を走らせ何処で間違えたのかわからないが、地図を見ても判らず、何時の間にか奥道原町二本松道に出てしまい、そのまま山木屋には行かず帰宅する。無計画は間違いの元であることがつくづく感じた今回の山行であった。



懇親会、山溪関係者1



懇親会、受証者1、手ぶれ有り



懇親会・山溪関係者2



懇親会、受証者2、手ぶれ無し



山岳遺産サミット写真(追加)

発表中の□□副会長、フラッシュ使えなかったので、うまく撮れなかった、すみません。

◆今年の季節の移り変わり、例年と全く違う。十二月は雪が少ないない、位の感じ、例年も少雪の正月はあった。一月暖かかったがそんな年もあった。二月は暖かかった、一月の続きだ。突然三月寒くなった。一月二月に戻ったというわけでもなく、例年の冬より寒かった。その寒さも長続きした。地球温暖化、と言われているが、「熱帯」になったり「寒帯」になったり、極端過ぎるようだ。「春の始め」はこうだった。本番の「春」は、「夏」は「秋」は。戻るのか、大きく変わるのか。

◆個人山行の記事下さい。毎月の会報、個人山行の頁□□□□さんの頁です。登山という「スポーツ」には「報告」が必須です。何処に行ったか、何時行ったか、何処から入ったか、どの道歩いたか、どのくらい掛かったか。そういう事を皆さんに知らせて、まず判って貰おう、そして仲間を増やそうという気持ちで登山家には大事。私もそういう事したくて当会に入りました。□□さんに負けないようにしましょう！

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのです。が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。